

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 桜虹会 りあん うすい教室 (多機能放デイ)		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能ということもあり、異年齢交流を通して思いやりや社会性を育み、互いに刺激を受けながら成長できる環境である。	戸外活動などの場面で、未就学児と放課後等デイサービスの児童がペアで行動する機会を設けています。年上の児童は年下の児童を気にかける経験を通して思いやりを育み、未就学児は年上児の良い行動を見て学ぶなど、互いに良い刺激を受けながら成長できるよう支援しています。	戸外活動を中心とした異年齢交流の機会をさらに充実させるため、ペア活動の機会を継続して設けながら様々な活動場面に取り入れ、児童同士が互いに学び合い成長できる支援の充実を図っています。
2	子どもたちの興味や関心に応じて、最新の流行や身近な話題を取り入れた支援を行っており、子どもたちが意欲的に活動に取り組める環境づくりができています。	教材や遊び、室内活動などに子どもたちの関心が高い内容や流行を積極的に取り入れることで、子どもたち自身が楽しみながら意欲的に活動に参加出来るように工夫している。	子どもたちの興味や流行を定期的に把握し、季節や学年に応じた活動内容の工夫や新しい教材の導入を行うことで、より多様な体験の機会を提供し、子どもたちが主体的に学び・楽しめる支援の充実を図っています。
3	少人数での療育のため、職員が子どもたちの良いところや小さな成長にも気づきやすく、子どもたちが安心して活動に取り組めること。	活動中に「できたこと」や「良いところ」を声かけして自己肯定感を高められるように支援しています。新しい課題などにも気づきやすく、職員間で情報共有を行い、スモールステップで成功体験を重ねられるようにしている。	保護者や学校と送迎時にこまめに情報共有を行っていく中で、一貫した支援を取り組んでいく。その時の様子に合わせてより

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家庭支援	・保育園に送迎の保護者とのこまめに聞き取りや面談等が来ていない。	・面談の日を作り、ご家庭での困りごとなど聞き取りなど、ゆっくりと話す機会を設ける。
2	・保護者同士の交流がない。 ・りあんでの活動の様子を見る機会が写真や動画しかない。	・保護者参加型の行事が少ない。	・授業参観やご家族参加型の行事等を設けていく。
3	・運動	・部屋が狭く、運動活動が限られてしまう。	・公園や体育館などを活用し、全身を使った粗大運動を行っていく。 ・限られた環境でも行える、運動を調べたり、同事業所のスポーツに特化した事業所に相談し、運動の活動を充実させる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 令和8年4月20日					
社会福祉法人 桜虹会 りあんうすい教室 (多機能放デイ)		保護者数	回収数	回収率	利用児童数	回収数 7名	
		8名	6名	77.8%	9名 (保護者8名)		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	2			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	5	1			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	1			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5	1			
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5		1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5			1	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4			2	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5	1			分かりやすく、丁寧な説明を意識して行っています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4			2	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	6				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5			1	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1		4	父母の会等はないため、行事等の中で、保護者同士や姉弟児が関わる機会を作っています。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5			1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5			1		安全計画について、配布をおこないます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4			2		小さい擦り傷などは、送迎時に状況やけがの状況を伝えていたため、速やかに説明を行うようにします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6					
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人 桜虹会 りあん うすい教室 (多機能型放デイ)		職員数 4名	提出数 4名	提出率: 100%	公表日 令和8年4月20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		教室ごとに、部屋の名前を記載している。平仮名が読めない児童は、色や写真にてロッカーの場所を分かりやすいように設定している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		業務終了後には清掃を徹底している。活動に合わせて部屋を使用している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		落ち着かない時や過敏が見られたときなど子どもたちの状況に応じて、個別や相談室などを使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	4		全職員で話し合い、目標や振り返りを行い、次の課題について検討している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎年2月に保護者の方に評価表の記入をお願いし改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員の意見が尊重され業務にすぐに取り入れる体制が整っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		今年度より、第三者の方に外部評価を行っていただけるようになった。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		こまめに、研修等行っている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		HPにて公表、事業所内に掲示を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		担当者会議や送迎時など、子供の様子について情報共有を行っていく中で、放課後等デイサービス計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		子どもたちの課題について、全職員で話し合い、検討したうえで放課後等デイサービス計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		会議にて情報共有を行っており、計画を意識して日々支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の記録の中で確認できるツールが確保されている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		子どもの支援に必要な項目を支援計画に設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員間で話し合いを行い、活動の計画を立てている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		机上、運動など幅広い活動を取り入れることができている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		一人一人に合わせた支援目標を作成し、発達状況に合わせて、スモールステップを意識した支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		朝、全員で流れや前日の児童の様子を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		送迎後や朝礼にて、支援の振り返りや子供の様子について情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		毎日、支援記録を記載しており、次の支援に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		全職員で話し合いを行い、子どもたちの様子について情報共有し次の課題について検討を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4		活動プログラムを作成時に、複数組み合わせ合わせて支援している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		複数人で行う活動の中で順番の決め方などを通して自己決定ができるよう促している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		関係機関と必要に応じて連携をとり、よりよい支援に繋げている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		学校から月に一度予定表が配布されている。学校へのお迎え時、情報共有をしている。送迎に遅れがあった際は電話にて送れる時間を詳しくお伝えしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		担当者会議や電話にて情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			卒業生がいなかったため行えていない。卒業生がいる時は、関係機関とこまめに情報共有を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			法人の中で研修を受けたかたが情報共有を行っていたが、うすい教室の職員は、時間帯もあり、研修を受けられていなかった。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4			公園や図書館など公共の場にて関わる機会を設けているが、しっかりとした交流は出来ていなかった。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4			参加できていなかった。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			送迎時にりあでの様子やご家庭の様子を伝えあう機会を確保できている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4			必要に応じて、教材の準備等を行い家庭でも取り入れてもらっている。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			契約時に丁寧に説明等を行っている。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			担当者会議等を行う中で、ご家族の意向を確認している。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			説明を行い同意をいただいている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		悩み等あった際は、助言等やサポートを行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		ワークショップや秋祭りなどの行事を通して交流する機会を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		契約時に苦情の対応の体制について説明を行っている。また、苦情解決の研修等を受け勉強を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		インスタグラムやLINE、HUGにて活動の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		鍵のついている棚に入れて保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		必要に応じて、絵カードや動作にて伝えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		職員の数、アレルギー、駐車場の問題等あり、地域の方まで呼ばなかった。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		避難訓練等を行い、保護者の方にお伝えしている。感染対応など変更があった際はその都度お伝えしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		定期的に避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		事前に保護者の方とてんかんや熱性けいれんの有無や発作が見られた際の対応について情報共有を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4	利用前に、アレルギーの有無など確認を行っている。	対象児童がいないため。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		毎年、安全計画を見直し作成を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		事業所内に掲示等を行いつつでも見られるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットがあった際は、状況や対策について話合っている。また、記録に残し、いつでも見直せるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		研修だけでなく、日ごろから対応について振り返り助言を受ける環境が整っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		現時点で対象児童はいないが、研修にて身体拘束を行う際の状況等勉強している。		